

現職教員に期待すること

伊藤隆文

(JICA 青年海外協力隊事務局事務局長)

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました JICA 青年海外協力隊事務局長をしております伊藤といいます。よろしくお願いいたします。

本日ここにお集まりになっておりますこれから派遣される先生方は 86 名いらっしゃると思います。協力隊 80 名、日系社会青年ボランティア 6 名と承知しておりますが、この先生方は 4 月の月上旬から駒ヶ根、二本松の両訓練所、そして横浜国際センター、これらはいずれも JICA の組織でございますが、こちらの方で派遣前の訓練・研修を受けていただくこととなります。その研修に先立って、今回の特別研修を設定していただいたということでございます。この特別研修の実施にあたりまして、大変お世話になりました文部科学省、それから筑波大学教育開発国際協力センターの先生方に高いところからではございますけれども、厚く御礼申し上げたいと思います。また今年は初めての試みとしまして、19 年度一次隊で派遣されて、昨年帰国された帰国隊員の先生方 16 名の報告会を同時に開催することにいたしました。これによりまして、先輩の経験が後輩にきちんと受け継がれることを期待しております。

青年海外協力隊は 1965 年に始まりまして、これまでに 3 万 3 千人を超える隊員を派遣してきました。今の時点で約 2400 人の隊員の皆さんが 74 カ国で活躍しております。それから日系社会青年ボランティアの方々は南米の日本人移住地を支援する海外開発青年という制度として、1985 年に発足した制度でございますが、1996 年（平成 8 年）度に名前を現在の日系社会青年ボランティアという形に変更しまして、これまでに約 1000 人のボランティアの方を派遣しております。そして、今日の時点で 5 つの国で 67 名のボランティアが活躍中でございます。

現職教員の特別参加制度といいますのは、先ほど文部省の国際課長さんの方からもお話がありましたが、派遣を開始したのは 2002 年でございます。この制度が始まる以前にも 650 人を超える学校の先生方が協力隊に参加されておりました。ただ協力隊の場合、訓練を含めて 2 年 3 カ月の期間参加することになりますので、学年の変わり目に日本に居ることが非常に重要である学校の先生の場合、なかなか 2 年 3 カ月という期間では現職での参加が難しいということで、トータルで 2 年の制度としたものでございます。この制度を作りまして以降、8 年間経ちましたが、585 名の先生方が派遣されておまして、現在 50 カ国で 146 名が活躍中でございます。そして、この現職教員特別参加制度は、昨年度から日系社会青年ボランティアの方にも拡大しております。

JICA のボランティア事業には 3 つの目的があります。1 つは開発途上国の経済・社会の

発展に貢献するという技術協力の側面があります。2番目は途上国と日本の友好親善と相互理解を促進するという側面があります。それから3つめがボランティアの経験を日本の社会に還元するということです。この3つ目の日本社会への還元というのが非常に重要な部分でありまして、国の事業として国民の税金でこの事業が賄われている理由がそこにあるといっても過言ではないと思います。教員の皆さんはこの社会還元という点で、とても有利な立場にあると思います。つまり帰国されてから、再び教壇に立って子供たちに経験を語ることによって日々の仕事の中で社会還元をすることになります。これは他の職業にはないメリットだと思います。したがって、私達JICAとして、もっと多くの先生方にJICAボランティアとして海外に出ていただきたいと考えております。

また近年、日本の社会も大きく変化しました。たくさんの外国人労働者が日本の経済を支える構図になってきています。その数は200万人とも言われています。そしてその子供たちである外国籍の児童、これが7万人も日本の公立の小学校に通っていると聞いております。恐らくここにおられる先生方が教えていらっしゃる学校にも、外国籍の子供が多かれ少なかれ在籍しているのではないかと思います。まさに日本の社会も異文化と共生する時代、社会になってきたということが言えると思います。こういう状況の中で、豊富な海外経験をもって、異文化に対する深い理解をもって、更にコミュニケーション能力がある人材、これを教育現場が必要としているのではないかと思います。皆さんが訓練も含めて2年間、協力隊員、日系青年ボランティアとしてチャレンジされれば、必ずこういう期待される人材になるものと確信しております。これから出発される皆さんにはどうか頑張ってくださいと思いますし、昨年帰ってこられた皆さんには、既にこうした人材として学校現場で活躍されているものと考えております。JICAとしましても、現在、「日本も元気にするJICA海外ボランティア」というプロジェクトをやっております、これは日本社会の中でボランティアの経験をいかして、地域の活性化ですとか、町おこし、村おこしに取り組んでいるOB・OGの方々、あるいは教育現場や自治体で頑張っているOB・OGの皆さん、これを積極的に取り上げて世の中に発信していく取組です。帰国隊員の皆さんには、御自分を含めて周りで頑張っている仲間の皆さんの情報をJICAに提供していただくと非常にありがたいです。

これから派遣される皆さんに対する今回のこの特別研修の目的の一つは、支援のプログラムをご紹介することにあります。筑波大学をはじめとする多くの大学による充実した支援体制が組まれています。協力隊の他の職種ではなかなかこれほど充実した支援の体制はみられません。どうか、しっかり活用していただきたいと思います。JICAのボランティア事業はボランティア本人が主役です。我々JICAはこれをサポートさせていただくものです。現地の活動の場面では、日本では想像できないような困難や苦労があると思います。でも迷ったらずひ高いハードルの方に挑戦をしていただきたい。そういうチャレンジ精神で乗り越えていただきたいと思います。昨日と今日の研修が皆さんにとって有意義なものになりますことを期待しております。

JICA を代表して一言御挨拶申し上げます。どうもありがとうございました。